

連載

病理医の つぶやき



がんの診断に欠かせない病理診断を病理医の先生が解説

第二回 / がん登録のための病理学

福山市民病院 病理診断科 重西 邦浩



病理医の仕事

病理医は組織や細胞をみて診断します。顕微鏡で標本を観察し、病理診断をします。腫瘍であるか否か、腫瘍の組織型、進行度、分化度、リンパ節転移の有無などを記載します。これは一種の翻訳作業と言えます。同じ原文でも翻訳者によって文章が異なるように組織診断も診断者によって内容に若干の違いがあります。しかし、同じ原文(標本)を翻訳(観察)している以上全く違った診断になることは通常は無いはずですが、ただ、組織量が少ない場合や希少例や難解例については、診断者間で大きな違いが有り、良性、悪性が一致しないこともあります。

良性と悪性

そもそも良性、悪性とは一体何でしょうか。良性腫瘍は宿主の傷害が限局し生命の危険がないものを言います。悪性腫瘍はそれ自体が進行すると宿主を死に至らしめるものを言います。病理医は通常、形態で良性悪性を診断しますが、この定義に腫瘍の組織学的な形態については述べられていない点に注意してください。腫瘍の組織分類、

良性悪性の判定は臓器ごとに異なっており個々に対応する必要があります。

かつては顕微鏡でみえる細胞や組織の見た目で見分けていました。その後さらに微細構造の観察できる電子顕微鏡、細胞が持っている特定のタンパク質を染色する免疫組織化学(免疫染色)が広く用いられるようになりました。さらに染色体転座や遺伝子変異を調べるようになりました。最近、脳腫瘍(グリオーマ)ではIDH(イソクエン酸脱水素酵素)遺伝子などの変異を元にした組織分類に改訂されました。将来は様々な癌の組織分類が遺伝子異常に基づいたものになるかもしれません。

改正される組織分類

組織分類が大きく変わると腫瘍登録のコードの使い方が変わって皆さん大変だと思います。我々もできるだけ新しい分類を取り入れていこうと考えています。移行期には聞き慣れない用語が出てきて困ることがあると思います。可能であれば病理医に問い合わせしてみるのも良いかもしれません。



認定特定非営利活動法人 日本がん登録協議会

JACR事務局だより

認定特定非営利活動法人 日本がん登録協議会事務局

濱松 若葉

掲載内容の訂正について

NEWSLETTER No.45の内容に誤りがございましたので、以下の通り訂正してお詫び申し上げます。

P13「登録室便り・紹介」の過去現在未来 表1・図1埼玉県ならびに長崎県の掲載が漏れておりました。両県ともに、NEWSLETTER No.40の「登録室紹介」に御寄稿を頂いております。

【表1】正:2016年9月

埼玉県 埼玉県保健医療部疾病対策課

長崎県 長崎県がん登録室 永吉明子/早田みどり

【図1】正:埼玉県部分赤色

会員のご入会について

平成30年7月1日以降、新たにご加入頂きました賛助会員をご紹介します。

新たに、賛助会員(団体)として三井住友海上あいおい生命保険株式会社様にご入会を頂きました。

MS&AD 三井住友海上あいおい生命

この場をお借りして、感謝申し上げます。